



図書館だより 2・3月

少しずつですが、春の訪れが感じられるようになりましたね。今年度も多くの人に図書室を利用していただきました。来年度もよろしくお願いいたします。

図書室の整理のため、新学期まで本を借りることができませんが、春休みも読書に励んで下さいね。読書を通して新しい自分と出会い、更に成長して新学期を迎えてください！

お知らせとお願い

* 図書館の本の貸出 2月26日(水)まで

* 図書館の本の返却 3月3日(月)までに全て返却

春休みは図書館は閉館です。4月の始業式以降、ご利用ください。

学級文庫の返却

各クラスに設置していた学級文庫を近日中に回収します。もし手元に持っている人がいたら、返却をお願いします。不明本が出ないようにクラスで協力してください。

みんなの本です。大切に！

朝の読書

寒さのせいか、3学期は登校時間が遅くなっている人が多かったのではないのでしょうか？
8:20~8:30は「朝の読書」の時間です。静かに席について、本を読みましょう。

「朝の読書」には、心を落ち着けるという目的もあります。ゆったりと余裕をもって臨めていますか？本は用意していますか？ギリギリに教室に入ってきたのでは、落ち着いて読書に取り組むことはできませんよね。宿題をしている人はいませんか？

目先のことにとらわれずに、「朝の読書」の積み重ねが将来の自分にどう影響するか、考えてみましょう。

クラス全体が、そして学校全体が静謐な雰囲気^{せいいつ}で読書に励み、落ち着いて一日が始まるようにみんなで取り組んでいきましょう。



今年度何冊読みましたか？

図書委員会では年間1人当たりの読書冊数10冊以上を目標に取り組んできました。1月末での状況は次のようになっています。

1年生12.6冊、2年生8.9冊、全校10.8冊



現在1年生7クラス、2年生2クラスが目標を達成！継続して頑張ろう！

新着図書紹介

『ゆびさきに魔法』三浦 しをん:著

直木賞受賞の『まほろ駅前多田便利軒』や本大賞受賞の『舟を編む』で知られる三浦しをんさんの新作です。ネイリストが主人公です。私たちが気づいていない偏見や固定観念に対する批判が描かれていて、考えさせられます。けれども説教臭くなく、ユーモアたっぷりで楽しく読めます。

『差別のしくみ』木村 草太:著

憲法学者である著者が、「差別を糾弾することよりも、差別のしくみを分析し、どこにその悪性があるのかを解明し、問題解決の糸口を発見するために書いた」そうです。同性婚、選択的夫婦別姓、人種差別、校則等を例に考えていきます。漠然と感覚的に捉えるのではなく、差別の構造を検証して定義し考えていきます。

『ハラヘリ読書』宮田 ナノ:著

おいしい読書の本です。想像するだけで満たされます。森茉莉、内田百閒、村上春樹、森見登美彦、角田光代……。名作に登場するおいしそうな食べ物に関するイラスト・エッセイ。「シュークリーム」と「シュウクリム」、「アイスコーヒー」と「アイスコオヒイ」、どちらがおいしそうですか？堅苦しいと思っていた文学もとても身近に感じられ、興味が持てます。

新学期にもたくさん本が入る予定です。4月にはぜひ図書室へ！

